# 令和２年度鳥取県小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業研修協力校事業取組報告　～倉吉市立東中学校～

## 現状の課題

課題① 表現意欲はあるが、既習事項の定着が不十分なため、学力の向上に十分つながっていない。
課題② 教員による scaffolding の適切さが不十分なため、思考・判断をする力が十分に伸びていない。

## 具体の取組の内容

**＜本研究における基本仮説＞**

**○英語で表現する場において、指導過程を工夫し、段階的に取り組ませることで、自分の考えや思いを相手に伝える発信力を育成することができる。**
**○適切なフィードバックや振り返りを工夫して行うことで、英語における学力の向上をより期待できる。**

＜『発信力』を支える、伸ばすべき３つの柱とその手立て＞

(1) fluency（流暢さ）
- Small Talkを中心とした帯活動
- より良いoutput活動のための input活動の設定

(2) appropriateness（適切さ）
- パフォーマンステスト・retelling 活動の充実
- 目的・場面・状況を意識した活動の設定

(3) accuracy（正確さ）
- 学習者自らの気づきを促すフィードバックや振り返り活動の設定

＜本校英語科共通の取組＞

**○ Small Talk**　（← 課題①・課題②）
- fluency 重視をしたやり取り
- accuracy を重視した中間フィードバック

**○ 授業と家庭学習・テストが往還する活動や仕掛け**　（← 課題①）
- 授業では「話す」ことを中心とした活動
- 家庭学習では「話したことを書く」活動
- テストでは類似問題を出題

**○ パフォーマンステスト・retelling 活動の実施**　（← 課題①・課題②）
- CAN-DOリストをもとにテストの策定
- ルーブリックの事前提示と生徒との共有
- pre-, while-reading での思考力を育む発問の工夫

## 成果①

**【英語学習 校内意識調査より】**
- 「英語が好き」　…　65.6%
- 「英語力が向上したと思う」　…　89.5%

**【中学２年生　英検IBAより】(経年)**

| | R1 (Test D) | R2 (Test C) |
|---|---|---|
| 英検３級相当の割合 | 19% | 50% |
| 語彙・熟語・文法 | 81.4% | 57.0% |
| 読解 | 78.9% | 44.3% |
| リスニング | 81.7% | 49.9% |

受検レベルに違いがあるため、領域別正答率に差はあるが、英検3級相当の生徒の割合は、県内平均23.9%を大きく上回っている。

## 成果②

**【取組の中で見られた生徒の変容】**

**◎使うことで既習事項が定着してきた！**
- 授業やテスト内での表現の幅が広がった
- 授業での学びを家庭学習に生かす姿

**◎発信することへの抵抗感がない！**
- 表現することを楽しむ姿
- 聞く（話す相手を大切にする）姿
- 間違いを恐れない雰囲気

**【取組の中で見られた教員の変容】**

**◎教員の授業づくりにおける意識の向上**
- まずさせてみて、間違いに気づかせる
- feedback に焦点を当てた教材研究
- 生徒自らに考えさせる指導の工夫

## 今後の課題・方向性

**【学力の向上と取組の継続】**

●発信力向上を学力向上とつなげる
- 授業でのfluency と accuracy のより良いバランスの追求と、振り返りのタイミングの研究（どの場面で何を追求するのか）

●間違いに自ら気づき、自ら活用できる力へ
- 振り返りカードの工夫・活用
- より効果的な feedback のさらなる工夫

●会話を深めるための「質問力」と、それを支える「読解力」の育成
- ただ話すだけでなく、必然性（聞き出す・伝える など）のあるやり取りができる力
- 教科書本文から類推してやり取りをする力